



いばら 公共交通

2013.2
第10号

かわら 版

みんなで守り、育て、未来に残そう 地域を支える生活交通

市内を走るバスの 利用状況について

市内には、バスや鉄道などの様々な公共交通が走っています。今号では、バスの利用状況について、1年前の調査結果との比較を中心に紹介します。

民間路線バス

中国バス（暫定運行）

前回（H23年11月調査）からの変更点

- 井笠鉄道の路線廃止による暫定運行に伴い減便
- 井原～笠岡線で、井原市民病院前を発着する便を新設

利用状況

井原市内での1便あたり利用者数（平日・休日を含めた平均）は、井原～笠岡線が13.0人、井原～福山線が5.4人であり、減便の影響等により前回よりも増加しています。

暫定運行開始前に行ったアンケート調査（H23年10月実施）では、減便への対応として、井原～笠岡線では「バスを利用する時間をずらす」、井原～福山線では「別の交通手段を利用する（主に鉄道）」という回答が多く寄せられました。

北振バス

前回（H23年11月調査）からの変更点

- 高校生が部活後にバスで帰れるよう、井原、矢掛からの最終便を19時台に繰り下げ
- 芳井地区の一部の便を芳井支所発着に変更

利用状況

- 芳井地区の土日祝日の朝夕の便を減便
 - 井原～美星間の経路統合
 - 美星地区の井原あいあいバス及びスクールバス一般混乗全便との接続確保
 - 芳井支所及び美星支所の拠点化（支所ロビー等の活用）
- 井原市内での1便あたり利用者数は、井原～芳井方面は、一般客や、小学生、高校生の利用増により、前回の2.8人から3.3人に増加しています。

備北バス

前回（H23年11月調査）からの変更点

- 運行経路を、佐原、与井経由から、芳井支所、さくら団地経由に変更

利用状況

平日のみ運行の井原～高梁線の井原市内での1便あたり利用者数は1.6人で、前回と同程度です。

【中国バス（暫定運行）の1便あたり利用者数】

	前回(H23年11月)		今回(H24年11月)	
	便数	利用者数	便数	利用者数
井原～笠岡線	52便	9.7人	36便	13.0人
井原～福山線	58便	4.7人	19便	5.4人

*H23年11月は、井笠鉄道による運行

【北振バスの1便あたり利用者数】

	前回(H23年11月)		今回(H24年11月)	
	便数	利用者数	便数	利用者数
井原～芳井方面	38便	2.8人	38便	3.3人
井原～美星方面*	10便	2.8人	12便	2.8人
美星～矢掛方面	23便	1.6人	23便	1.4人

*井原～美星方面の利用者数は、平日のみの集計結果

【備北バスの1便あたり利用者数】

	前回(H23年11月)		今回(H24年11月)	
	便数	利用者数	便数	利用者数
井原～高梁線	4便	1.5人	4便	1.6人

*平日のみの集計結果（土日祝日は運休）

● 11月に実施した7日間（平日5日・土曜日・日曜日）の調査の集計結果
● 便数は平日の便数
● 利用者数は、当該路線の市内区間における1便あたり利用者数

裏面に、井原あいあいバスの利用状況を掲載しています。

井原あいあいバス

全体の利用状況

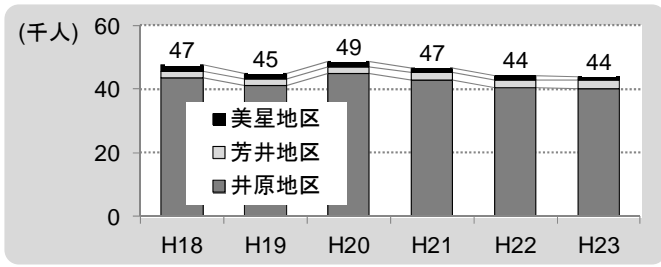
平成23年度の総利用者は4万4千人で、平成22年度と同程度です。

大部分を占める井原地区7路線の利用者は4万人で、ここ数年は減少傾向にあります。

芳井地区の利用者は3千人で、ここ数年はわずかながら増加傾向にあります。

美星地区の利用者は1千人で全体に占める割合は小さいですが、減少が続いています。

【井原あいあいバス年間利用者数の推移】



【井原あいあいバス（井原地区）の1便あたり利用者数】

	H22年度		H23年度	
	便数	利用者数	便数	利用者数
田中美術館線	4便	3.3人	4便	3.8人
嫁いらず観音線	7便	5.0人	7便	4.9人
馬越恭平線	7便	4.1人	7便	4.4人
北条早雲線	4便	5.7人	4便	4.9人
野上線*	3便	9.4人	3便	9.8人
ぶどうの里線*	2便	12.3人	2便	11.6人
子守唄の里線*	2便	6.8人	2便	5.7人

*隔日運行の路線

【井原あいあいバス（美星地区）の1便あたり利用者数】

	H22年度		H23年度	
	便数	利用者数	便数	利用者数
黒木・星田線	1便	0.4人	1便	0.4人
黒萩・八日市線	1便	0.9人	1便	0.9人
鬼ヶ嶽線	1便	0.8人	1便	0.8人

いずれの路線も平日のみ運行

【井原あいあいバス（芳井地区）の1便あたり利用者数】

	H22年度		H23年度	
	便数	利用者数	便数	利用者数
天神峽線	3便	3.9人	3便	4.0人
ごんぼう村線	2便	4.9人	2便	4.9人

いずれの路線も隔日運行

地区別の利用状況

井原地区は、「野上線」と「ぶどうの里線」の利用者が1便あたり10人前後と比較的多く、その他の路線は概ね5人程度となっています。

芳井地区は、「天神峽線」、「ごんぼう村線」の2路線とも、5人弱の利用があります。

美星地区は、「黒木・星田線」、「黒萩・八日市線」、「鬼ヶ嶽線」のいずれも、1人を下回っています。

表の見方

- 各年度の1年間の総運行便数と利用者数をもとに算出した値
- 便数は平日の便数
- 利用者数は、1便あたりの利用者数

利用促進に向けた取り組み

バス体験学習会の開催を幼稚園に拡大

井原市公共交通会議では、子どもたちにバスに親しんでもらい、バスの将来的な維持継続に向けた利用促進に繋げることを目的として、井原市内の小学校、本年度からは幼稚園へも対象を拡大して「バス体験学習会」を開催しています。

本年度は1月までに桂原小学校、西江原小学校、木之子幼稚園、井原幼稚園で開催しました。小学生、幼稚園児は実際の車両を使って乗降方法や、乗車マナー、交通安全について学びました。

参加した小学生、幼稚園児からは、「バスのミラーは何個ありますか?」といった質問や、「またバスに乗りたくない」といった感想がありました。今後も、小学校、幼稚園からの申込みに応じて開催する予定です。

